



内閣官房 内閣情報調査室

平成29年度採用者に、当室を志望した理由や官庁訪問の様子等について語っていただきました。

1年目
職員より

インテリジェンスへの道

■ 学生時代に頑張ったこと

私は大学生生活を通じて、準体育会サッカー同好会で日本一になることを目標に取り組み、平日は4回の練習に休日は試合というようにサッカー漬けの日々を送りました。公務員試験の勉強は3年生の4月から本格的に開始したのですが、サッカーとの両立に非常に苦労しました。最後まで諦めずに量をこなすことが大切だと思います。面接対策としては話の引き出しを増やすという気持ちでどんな分野のことにも積極的に取り入れるようにしていました。

■ 当室で将来的に携わりたい業務

将来的には海外部門での情報収集や分析に携わりたいと考えています。その分野では誰にも負けないほどの専門性を高め、スペシャリストになることが目標です。

■ 内調を知ったきっかけ

私は採用パンフレットを見て、内閣情報調査室という存在を知りました。「内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務」とは具体的にどのようなことをするのか興味を引かれ、説明会や個別相談会に参加しました。そこで、官邸との距離が近くその重要政策判断に関与できることや在外公館で情報収集等の仕事ができることに大きな魅力を感じました。ただ最終的に内調を志望することを決めたのは、説明会でお会いした先輩がとても印象的でその先輩のようになりたいと思ったからでした。とてもフランクに話してくださる一方で、国家を支える業務の一端を担うことについて熱心に教えていただき、私もインテリジェンスの道を志すようになりました。

■ 後輩へメッセージ

内調の業務の特殊性は他にはないものです。少しでも興味があれば説明会などに参加してみてもいいのではないでしょうか。好奇心旺盛な皆さんを飽きさせることのない刺激的な世界が待っていると思います。そして当室に魅力を感じ、志望先として選んでいただければ幸いです。

活躍の機会を求めて

■ 内調を知ったきっかけ、志望理由

一次試験後の官庁合同業務説明会で知りました。その後、何度か独自業務説明会に足を運びました。内調は国家公務員一般職（大卒程度）からのみ採用を行っており、他省庁と比べて、一般職であっても活躍の機会が多かったです。また、情報分析専門の組織という特異性にも魅力を感じました。

■ 官庁訪問で印象に残っている職員について

在外公館で勤務経験のある職員のお話が印象的でした。現地の情報を集めるため、新聞のインクで辞書が真っ黒になるまで外国語を勉強したそうです。私も、留学経験を生かし、国際関係の部署で活躍したいですが、まずはどのような業務でも積極的にトライしてみたいです。

■ 学生時代頑張ったこと

旅行メディアでネット記事を執筆するアルバイトをしていました。私が執筆したある記事が、リリースから1週間で100万件の閲覧数を獲得したことがあります。また、1年間イギリスに留学していました。

■ 公務員試験・面接対策

予備校に通い、教材などは予備校のテキストを使用していました。面接対策も予備校の先生に協力してもらいました。就職活動全般に言えることですが、他の人に見てもらうことが大切かと思います。

■ 後輩へメッセージ

官庁訪問をするにあたり、どの省庁に訪問するか、とても悩まれると思います。私も、最後まで悩みに悩んだ一人ですが、その時は思い切って、職員の先輩に相談してみました。率直に相談してみるというのも、一つの技であると思います。最後まで頑張ってください。

業務の幅広さに魅力を感じて

■ 内調を知ったきっかけ、最終的に志望した理由

大学での研究を通して、情報を扱う仕事がしたいと思っていました。そのため、最初は公安調査庁に興味があり、合同説明会に参加しました。その際、同じ会場で内閣情報調査室の説明会もあり、そこで初めてそのような組織があるのだと知りました。最終的に内調に決めた一番の理由は、幅広い業務に携わることができると考えたからです。他省庁のように、その省庁が管轄する分野だけではなく、内閣の政策に関する幅広い分野の情報収集・分析に携わることができるのはとても魅力的に感じました。

■ 官庁訪問でのエピソード

官庁訪問では、多くの職員の方と面接しましたが、どの方との面接も面接というよりおしゃべりという感じだったのが印象的でした。その中でも、内調での仕事のやりがいや重要性など、こちらが分からないことについて、丁寧に説明していただいた方が特に印象に残っています。仕事の重要性を話していただいた際には、丁寧かつ熱意のこもった話し方だったので、どれだけ重要な仕事かがとても伝わってきました。同時に、自分もこんな風に話すことができるような仕事がしてみたいと感じました。

■ 内調で関わりたい業務

様々な業務を経験したいという思いもありますが、実際に仕事をしていく中で自分に合った業務を見極めていきたいと思います。

■ 後輩へメッセージ

面接では、いかに相手に伝わりやすいように説明するかということを意識していました。特に自分が大学でやってきた研究等を説明するときは、面接官の方が専門外の場合でも伝えられるようにすると思います。また、いくつか他の省庁の説明会に参加したり官庁訪問をすると、その省庁の特色や雰囲気も分かり、それらを比較することで本当に自分の行きたいところややりたいことが見えてくるとと思います。私もいくつか説明会に参加して比較した結果、内調で仕事がしたいと思いました。絶対にこれがやりたいというものがない人は、可能性を広げるためにも説明会などに多く参加すると思います。